
Fate/zero extra

BGM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fate/zero extra

【コード】

N5139BA

【作者名】

BGM

【あらすじ】

月の聖杯戦争・・・その勝者となった少女はある願いを抱いた

冬木で行なわれる第四次聖杯戦争

そこに少女の願いによってイレギュラーが発生する

そのイレギュラーがどのような結果を呼び寄せるのかは誰にも解らない

アーチャー陣営 プロローグ

ああ・・・私は消える

だけど大丈夫

私の大事な親友が私の本体オリジナルを見つけてくれる筈だから

たとえ私が私の思い出オリジナルを持っていなくても彼女なら任せられる

ただ一つ心残りといえば、未熟・・・いや無能だった私について来てくれた最高の相棒サーヴァントアーチャーの事だ

彼が居たからこそ、私はここまで来れた。彼が私のサーヴァントで本当に良かったと思っっている

だけど、彼の過去はあまりにも報われていない。彼自身は気にしていないようだけど・・・

だからこそ考えてしまう、思ってしまう、自分が消えようとしていくこの瞬間にも願ってしまう・・・

“彼に幸せを・・・”と

そう願った瞬間ムーンセルがうつすら輝いた

かりして渡すのを忘れてしまったようだ」

「凜にですか？」

「ああ・・・ふむ。渡し忘れたのなら致し方ない。ならば私とともにサーヴァント召還という奇跡の立会人になって貰おうか。その後この宝石を凜の元に送ろう」

まさかのアクシデントだがこの程度で慌てる遠坂時臣ではない
すぐさま魔方陣の完成のために作業を再開する

途中まで描いていたため時間も5分足らずで書き終え
凜に渡し忘れた宝石を首から掛け、聖遺物である『この世で最初に
脱皮した蛇の抜け殻の化石』を祭壇に置き、終にサーヴァントを召
還する準備が整ったのだ

横に目を配り、言峰璃正と言峰綺礼を後ろに下がらせる
すうーと息を吸い、魔術回路を起動させ、この世にサーヴァントを
召還するための呪文を唱える

「素に銀と鉄。礎に石と契約の大公。祖には我が大師シュバイン
オーグ。

降り立つ風には壁を。四方の門は閉じ、王冠より出で、王国に至
る三叉路は循環せよ

閉じよ《みたせ》。閉じよ《みたせ》。閉じよ《みたせ》。閉じよ
《みたせ》。閉じよ《みたせ》。
繰り返すつどに五度。

ただ、満たされる刻を破却する

告げる。

汝の身は我が下に、我が命運は汝の剣に。

聖杯の寄るべに従い、この意、この理に従うならば応えよ

誓いを此処に。

我は常世総ての善と成る者、

我は常世総ての悪を敷く者。

汝三大の言霊を纏う七天、

抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ

！」

魔力が迸る

自分の中の魔力がすさまじい勢いで吸われていく

あまりの魔力量に目眩がする

だが、確信した

（この消費魔力量・・・間違いない。来るぞ・・・かの英雄王が！）

瞬間、光が爆発した

あまりの眩しさに目を瞑ってしまったが、手応えは在った。

そして感じる。目の前にいる存在を。決して人間には出せない存在

感。アサシンに似ているがそれよりも遥かに強い存在を！

「ははは・・・勝ったぞ！綺礼！この戦争我々の勝利だ！」

「ふむ・・・状況は飲み込めんがどうやら召還されたようだな。しかし、開口一番に高笑いとは目当てのサーヴァントでも引き当てたのかな？マスター??」

ああ・・・そういえば言い忘れていたな

問おう、君が私のマスターか？」

目の前に居るのは背が高く赤い外套を纏った浅黒い肌の男だ

あからさまな皮肉を言われた様だが、かの英雄王の御前だ。失礼な態度はとれない

頭を下げ、礼をしなければ・・・

「これは失礼しました。王の中の王ギルガメツシュよ。あなたほどの英雄を引き当てたのなら勝利は必然。先の高笑いどうか許してはもらえないでしょうか？」

赤い外装の男はギルガメツシュという単語に眉を上げ、しばらく考えた後に口を開いた

「私は残念ながらギルガメツシュでは無いし、王でもないぞ……。マスター？どうした口が開いたままでぞ？」

とニヤニヤしながらこちらを見てくる私が召還したサーヴァントだが、今こいつはなんて言った？ギルガメツシュじゃない？

「……。馬鹿な！？かの英雄王を必ず呼び出せるはずの聖遺物を用意したはずだ！なのに何故だ！」

「ふむ……。推察でしかないがイレギュラーでも発生したのではないか？」

「イレギュラーだと！？それより貴様のクラスは！？真名は！？宝具は！？」

視界が歪む、なにやら目の前のサーヴァントが何か言っているようだが何も聞こえない

どうやら魔力消費量が予想を遥かに上回っていたようだ
……。くそ。このサーヴァントにはまだ聞きたいことが残っているというのに……。意識が飛ぶ……

目の前で倒れたマスターを担ぎながら目の前に居る二人組みの男達に問いかける

「さて・・・マスターが倒れてしまっただけ。どこか休める場所はないか？」

慌てたように動き出す二人

その二人に付いて行きながら、アーチャー弓兵は思いに伏せる

“彼に幸せを・・・”

彼がここに召還される前に聞いた最後の言葉だ

あの場所に居たのは、自分と主人マスターのみ。自分は言っていない。つまりこの言葉を送ったのは彼女ということになる

(余計なお世話だよ・・・マスター)

だが、どこかうれしそうに笑っていた

クラス アーチャー
 ・弓兵

真名 ・?????

属性 ・秩序・中庸

マスター・遠坂時臣

ステータス

筋力：D (A)

耐久：D (B)

俊敏：C (C)

魔力：B (A)

幸運：E (E)

クラス別能力

対魔力：D

単独行動：B

保有スキル

千里眼：C

魔術：C -

心眼(真)：B

魂の改竄：A

正義の味方：EX

宝具

???

アーチャー陣営 プロローグ（後書き）

初めましてBGMと申します

この度fateの小説を書かさせてもらいます。

小説自体は理想郷で別名義で書いていたのですが、パソコンが糞だったのとデータが吹き飛んだことにより書くのをやめていたのですが、ふつふつと書く意欲が湧いてきたので書かせてもらいましたさて、この小説はFate/Zeroの中にFate/Extraの赤弓兵がINする話です

王様には退場させてもらいました

皆さんご存知だとは思いますが、決してFateのエミヤではありません。似ていますが違います

この赤弓兵もちろん魔改造済みです（笑

いろいろ突っ込みどころ満載ですがよろしくお願いします

魂の改竄と正義の味方のスキルはもちろんオリジナルスキルです

この二つはネタバレおkなんで（え

あ、言い忘れましたがアーチャー陣営以外にも魔改造陣営が出てきますのでご安心を

セイバー強化は当たり前。おじさん強化も予定、もう少しまともな魔力供給を……。青髭の旦那？旦那様になっちゃいますよフフ。。。

ウェイバー君？あいつは良いんだよライダー元々強いし、幸運A+だし これ重要

ケイネス先生？……。どうするかなあ。ぶっちゃけソラウさえ居なければいいとこまで行くと思うわけだよ。ただイケメンの方のランサーの黒子が邪魔をする

むむむ。。。鯖変えるのも一つの手だな（え

では次は

セイバー陣営のプロローグになります

ご期待に添えるか解りませんが感想待ってます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5139ba/>

Fate/zero extra

2012年1月14日07時47分発行